

# 私の一文字



副代表幹事  
働き方改革委員会 委員長  
**田代 桂子**

大和証券グループ本社  
取締役兼執行役副社長



## 「決める」覚悟を持つ

会員の方が思いを込めて選んだ一字に、書家の岡西佑奈さんが命を吹き込む「私の一文字」。今回は、田代桂子副代表幹事・働き方改革委員会委員長にご登場いただきました。

**岡西** 今回、女性でありながら力強く前に進んでいらっしゃる田代さんのご様子を伝えたく、「決」には水のような自由さを込め、作りの「夂」の部分は力強さを表しました。

**田代** 「決」の字を選んだのは、日ごろの「決められない」というフラストレーションと、何とかしようよという気持ちからでした。

決めるということはある意味、責任を取るとか覚悟を決めることです。コロナによって「決められない日本」の姿が大きく露呈していますが、何かを捨てて何かを選ぶということが、今の日本は得意ではない気がしています。私も決められない自分を見て、もっと決める必要があるのではないかと考えています。

**岡西** 決めることの大切さをしみじみと感じたご体験をお伺いできますか。

**田代** 人間は誰でも決めなければいけないときがあります。私は難しい方、チャレンジングな方を選んできました。どうしてかと言われると、好奇心があり過ぎたからかもしれません。ただ、会社において私が全部一人で決めることはまず、ありません。同僚をはじめ人間関係に恵まれてきたことは幸運でした。私が決めてうまくいなくてもみんなと一緒に悩んで相談に乗ってくれるだろうな、というバツ

クがあるからこそ、決められてきたと思います。

**岡西** 決断なさるときのポイントは何でしょうか。

**田代** 若いころ、何かを決めなければいけないときに部長など上司から「全てのオプションを考えたのか」といつも確認されました。AとBとCだけで、本当にDやEはあり得ないのか、安易なオプションだけでは駄目だよと。後でこんなのもあったのかとなったら大変なことになりますから、あり得ないのであれば、オプションとして残さなければいけない。決める前にはできるだけ多くのオプションを考える。今もそうですし、自分が部下を持ったときもよく言いました。

**岡西** 田代さんは経済同友会で4月から副代表幹事にご就任され、働き方改革委員会委員長もご担当されています。今後のご活動についての抱負もお伺いできますか。

**田代** 私は前年度、グローバル競争下の人材戦略と労働市場改革委員会の共同委員長を務めておりました。今、そのまとめを行っている最中ですが、日本は人材戦略も待たなしです。経営者は人材戦略についても覚悟を決めて取り組んでいないから、30年も40年も同じという状況です。法制度を変えなければいけないとかさまざまな事情はありますが、今でもやれることはたくさんあります。

働き方改革もそうです。法改正を待っていただければいいかな分りません。問題意識や課題認識は皆さんすごく持っていますので、その解決に向かってもっとスピーディーに進められればいいと思っています。



書家  
**岡西 佑奈**

1985年3月生まれ。23歳で書家として活動を始め、国内外受賞歴多数。